

問牧小学校 研究の全体構造図

学校教育目標

- よく考え 進んで学習する子
- 広い心で 友達を思いやる子
- ねばり強く 自ら切り拓く子

平成7年4月1日改訂

令和元度の教育重点目標

「目標への見通しをもち、ねばり強く歩む子」の育成

学校研究主題

ねばり強く取り組み、自分の思いや考えを明瞭に表現する子どもの育成
～論理的思考をうながす授業づくりを通して～

めざす子ども像

- 目的を見すえ、ひたむきに学ぶ子
- 根拠を明確にし、筋道立てて表現する子
- 基礎基本を確実に身につける子

【研究の仮説①】

課題設定において、見通しを持たせることで、子どもたちはゴールを目指し、ひたむきに学ぶことができるだろう。

(令和元年度の重点)

平成30年度から継続して

【研究の仮説②】

発表の場面において、5つの言語意識を高めることで、子どもたちは根拠を明確にする必要性に気づき、筋道立てて表現しようとするだろう。
(平成29年度の重点)

【研究の仮説③】

日常の学習やホップステップにおいて、評価の工夫をすることで、子どもたちは達成感や自身の成長を感じ、基礎基本を確実に身につけることができるだろう。

【研究の内容①】

- ・児童の実態に合わせた課題設定の工夫
- ・単元全体の見通しを持たせる学習計画の工夫
- ・見通しを持たせる学習過程の工夫

【研究の内容②】

- ・発表の仕方
- ・振り返りの工夫

【研究の内容③】

- ・年間を見通した課題設定の工夫
- ・達成感をもてるような評価の工夫

研究主題**ねばり強く取り組み、自分の思いや考えを明瞭に表現する子どもの育成**

1 研究主題の設定の理由

本校では、平成２９年度から３０年度まで、研究主題「自ら学び問い続け、豊かに表現する子どもの育成～小規模・複式のよさを生かした国語科の授業づくりを通して～」を設定し研究を進めてきた。２９年度は、自分の思いを表現するために必要な知識を学び、表現の仕方を工夫し、相手に思いを伝える活動を、３０年度は、先を見通して学習したり、わかりやすく筋道を立てて自分の考えをまとめたり、説明する活動を積極的に取り入れてきた。その結果、児童は様々な方法で表現しようという意欲を持つことができたり、自分の考えを積極的に説明したりする力がついてきた。

～ 一部省略 ～

そこで、３０年度同様に「学習課題の設定の工夫」を柱にしていくことで、物事を論理的に考え、筋道をたてて表現する力を子ども達に身につけさせたい。また、自己の学習活動を振り返り、「次の目標が明確になる評価の工夫」も合わせて令和元年度の重点として研究を進めたい。

また、今年度の重点目標は「目標への見通しをもち、ねばり強く歩む子」の育成である。目標に向かって挑戦し、最後まで努力し続けることができる強い心と体を持つことである。先を見通して、自分で考え取り組み、筋道を立てて自分の思いを表現しようと努力すること。そして、その成果を振り返り、自信につなげることが、この目標達成に寄与することと考える。

2 児童の実態～省略

3 研究計画

(1)1 年次(平成29年度)

- ①研究主題・めざす子ども像・研究仮説・研究内容の確認
- ②授業研究
- ③1 年次研究のまとめ（成果と課題の検証・2 年次に向けて）

(2)2 年次(平成 30 年度)～研究の継続実践・2年次検証～

- ①2 年次研究の確認（1 年次の反省を受け，修正）
- ②授業研究
- ③2 年次の研究まとめ（成果と課題検証・3 年次に，向けて）

(3)3 年次(令和元年度)～研究の深化・まとめ～

- ①3 年次研究の確認（研究主題・めざす子ども像・研究仮説・研究内容の修正深化）
- ②授業研究
- ③枝幸町教育研究大会学校発表（11/14）・公開授業（3・4 年）
- ④3 年間の研究のまとめ（成果と課題の検証・研究収録）

4 令和元年度取り組み（研究内容の具現化）

【研究の仮説①】

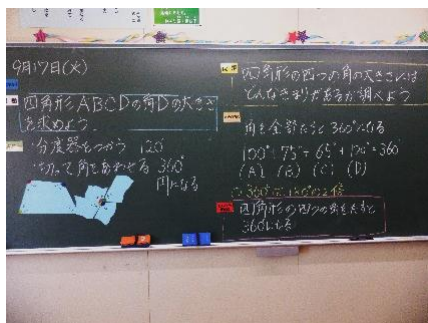
課題設定において，児童に見通しを持たせることで，児童はゴールを目指し，ひたむきに学ぶことができるだろう。

研究内容①

- （1） 児童の実態に合わせた課題設定の工夫。
- （2） 単元全体の見通しを持たせる学習計画の工夫。
- （3） 見通しを持たせる学習過程の工夫。

(1) に関わって

- ・児童の実態と課題を整理し、共通理解を図る。
- ・問題提示の際、児童の実態に応じて具体物を提示したり、手がかりになる用語を示唆したりする。それにより、児童と具体的で取り組みやすい課題を設定する。



具体物や、どうすれば問題を解決できるかを予想した上で、児童と共に、課題を設定していくように工夫した。

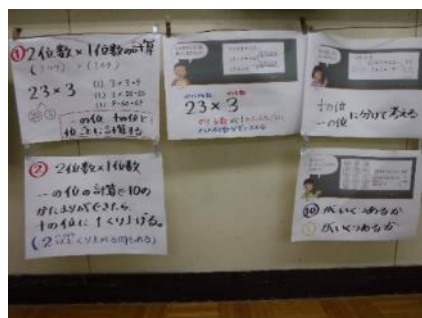


(2) に関わって

- ・考えを表現し伝え合う学習活動を積極的に取り入れ、教科の目標を実現する手立てとして言語活動の充実を図る。
- ・具体物を用いるなど、実感的な理解が得られる活動を取り入れる。
- ・学習の系統性をふまえ、スパイラルに学習を重ね合わせながら概念や見方・考え方等を拡張させる。

(3) に関わって

- ・既習事項を振り返らせることによって解決の見通しをもたせる。
- ・問題の答えを予想させることによって、解決の見通しをもたせる。
- ・課題に明確なゴールを含めることで解決の見通しを持たせる。



既習事項などを掲示するなどして、それらを手がかりに予想させ、学習の見通しを持たせる。そのことで、その時間のゴールが見通すことができた。



《取組の成果》

児童の実態と課題を整理し共通理解を図ることで、児童一人一人の反応をあらかじめ予想し、一単位時間の課題設定や学習過程を工夫したり、児童が自力解決できるような具体的な手立てを考えたりして授業づくりに努めた。そのことで、児童が見通しを持って問題解決に臨み、自分なりに順序立てて考える力がついてきた。

【研究の仮説②】

発表の場面において、5つの言語意識を持たせることで、子どもたちは考えの根拠を明確にすることの必要性に気づき、筋道を立てて、表現しようとするだろう。

5つの言語意識とは、相手意識「だれに」、目的意識「何のために」、場面状況意識「何を」、方法意識「どのように」、評価意識である。

研究の内容②

- (1) 発表の仕方
- (2) 振り返りの工夫

(1) に関わって

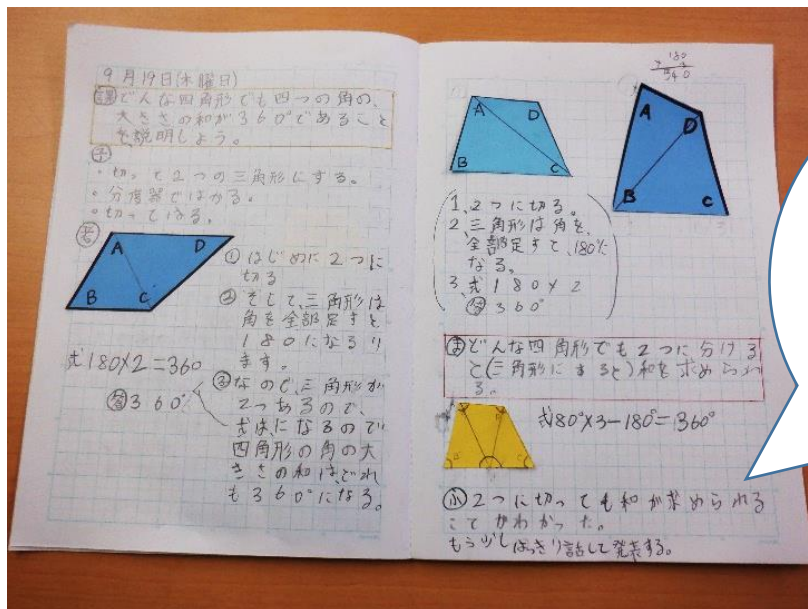
- ・算数科では、方法意識を高めるために「はじめに」「次に」「そして」といった順序を表す言葉や「だから」「～ので」といった理由や根拠を表す言葉、数学的な用語を使用させる。
- それらの言葉を使うことによって、自分の考えを整理し、明確に表現することを意識させる。
- ・問題に合わせて、ICTも活用した発表方法に取り組ませる。



自分の考え(ノート)を
iPad で画像にとり、TV 画
面に映し、それを活用し
て、順序立てて説明する
取り組みをしています。

(2) に関わって

- ・まとめの後に必ず振り返りを設定する。
- ・振り返りの観点を示し、「理解したこと」「よかった考え」「できるようになったこと」
「自分の発表」「新たな疑問」などを簡単にノートに記述したり口頭で発表したりする。



その日の学習で、「理
解したこと」「できるよう
になったこと」や「新
たな疑問」などを記録さ
せ、学習の振り返りと次
時の学習の見通しをも
たせるようにしている。

《取組の成果》

算数科においては、5つの言語意識の中でも、相手意識を重点において取組を進めた。

そのことによって児童は、自分の考えをわかりやすく説明するために、順序に気をつけて発表することができた。また、振り返りの観点を明確に示すことで、児童自身が自分の理解度やがんばりを確認し、次の学習への意欲付けにつなげられるようになった。

【研究の仮説③】

日常の学習やホップステップにおいて、評価を工夫することで、子どもたちは達成感や自身の成長を感じ、基礎基本を確実に身につけることができるだろう。

研究の内容③

- (1) 年間を見通した課題設定の工夫
- (2) 達成感をもてるような評価の工夫

(1) に関わって

- ・ NRT テストの結果などを活用し、個に応じた目標と課題を設定し、基礎基本の定着を目指す。



(2) について

- ・ 1時間毎の評価は、授業の目標から観点を絞り評価する。ノートの記事や発言、確かめ問題、児童の振り返りから児童の理解度や授業への取組を評価する。
- ・ 児童の取組への励ましや、課題解決できたときの評価など、学習場面に応じて児童の意欲を引き出させるような工夫に努めた。

《取組の成果》

児童が達成感を持てるような声かけや励ましを意識することで、教師側も、児童のがんばりや困り感に着目して授業づくりに努められるようになってきた。